

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成28年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 3月 1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内の行事だけでなく、町内会や町内の行事(はだか祭り、稲沢中学校職場体験、敬老会など)に積極的に参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

現管理者は昨年12月に一般介護職から昇任したばかりで経験も浅いが、代表者・職員からは全幅の信頼を寄せられており、ホーム運営に全力を注ぐ意欲を感じた。職員は常に利用者への声掛けを心掛け、笑顔が増えるようにと、明るく楽しい雰囲気作りし心掛けている。家族へはおもてなしの心を忘れずに接している。  
代表者は、「自分が年を取ったときに入りたいと思うホーム」、「利用者と家族が楽しく過ごせるホーム」を目指し、信条として「三方良し」を挙げている。売り手(ホーム)、買い手(利用者)、世間の評判、それぞれが良好な関係を維持することをホーム運営の基本に掲げている。排泄介助におけるホットタオルの使用は、他に例を見ないきめ細かい配慮であり、「三方良し」の実践に繋がる支援である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に行う職員会議、カンファレンスを通し、管理者、職員間で対応の仕方を話し合っている。	代表者は職員に対し、「自分が年を取ったときに入りたいと思うホーム」を目指すことを伝えている。一人ひとりに合わせたサービスを、アットホームな雰囲気の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われているはだか祭りでは、裸男との交流がある。地区での敬老式等の出席を楽しみに思い交流がうまく出来ていると思う。	「国府宮神社のはだか祭り」では裸男がホームを訪れており、毎年の恒例行事となっている。ホーム開設時から町内会に入っており、今年は組長を引受け、地域の一員として近所との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて地域の方に、現在の利用者さんの状況をお話し協力を得ている。毎年中学生の職場体験実習を受け入れ、知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、推進会議を行いサービスの向上に活かしている。	奇数月に、家族代表、区長・民生委員、市担当課・地域包括職員を招いて運営推進会議を開催している。出席者からは様々な質問・意見が出ており、会議として機能している。	目標達成計画を議題に盛り込んで発表し、随時進捗状況を報告することにより、ホームの姿勢・取り組み状況を伝える機会に活用されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に稲沢市役所高齢介護課の担当の方に毎回出席をお願いしている。担当者とは日頃から連絡を取り合い現状を報告している。	市や地域包括支援センターの職員が随時会議に出席し、ホームの実状は行政に伝わっている。市からの要請(生活保護者受入れ等)にも対処し、市への要望・相談を随時行って、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入浴拒否の利用者さんに対し、ご家族の了解を得て誘導の仕方を工夫している。	常に、安全確保と身体拘束について意識して支援している。昨年夏に皮膚病が発症した際にも、入浴拒否の利用者に対しては無理強いせず、粘り強い声掛けで入浴を実現し、蔓延を食い止めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いで見過ごしてしまわない様注意している。介護に熱が入る時は、他の職員との協力を得て対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	耳が聞こえなかったり、上手く意思疎通が出来ない利用者さんに対し職員が代わって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、施設での生活の流れ等、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に耳を傾け、ご家族の面会時に、日頃と変わって来ている様子をお伝えしている。	2～3ヶ月毎に「白寿たより」を家族に配布し、状況を伝えている。家族来所時には管理者だけでなく職員全てが対応し、意見・要望を聞く姿勢を見せている。聞き取った意見等は管理者へ集約するようにしている。	「白寿たより」に担当者のコメントを入れ、利用者の生の状態を伝える工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者さん、ご家族、職員と3方良しの職場作りを心がけている。	2ヶ月毎に職員会議を開催している。毎回法人代表が出席しており、意見・要望を聞く機会を作っている。代表者の考えとして、職員家族を大切にシフトを基本としており、長く働いている職員は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握するため、各職員と年に一度面談による話し合いの場を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を重要視して、職員の給料に反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いにサービスの質を向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時、本人の要望に耳を傾け困っていることを手助けできるよう計画書を作成し、入所後は声かけを特に大切にケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内での生活についてお聞きしたい点などを問いお話をさせてもらっている。3ヶ月に一度ご家族へお知らせを出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、利用者さんご家族がここでどのように生活していきたいかをお聞き添える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にしている。簡単な仕事をお願いし役割を持って日々過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で利用者さんが要望している事を家族にお話し協力を得るようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られるご家族や友人には来て頂くだけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。ご家族には馴染みの喫茶店等へ連れて行って下さる様をお願いしている。	毎年、国府宮はだか祭の裸男が来所して大騒ぎになるが、利用者の喜ぶ姿が見られるよう温かく受入れている。テニス仲間の訪問があれば呈茶してもてなす等、関係継続の支援を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、一つのテレビを囲みフロアで皆さんと一緒に楽しく過ごせる様にしている。共に過ごす時間を作り、利用者同士の関係も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時までの相談はしているが、その後の連絡はしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも利用者の気持ちやその変化に気づける様会話を大切にしている。	「声をかける・寄り添う・相手になる」等、常にコミュニケーションを取ることを大切にして思いや意向の把握に繋げている。発語が難しい利用者は信頼関係で伝わることもあり、家族と協力して思い等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を作成し職員が共有できる様にしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中から生活リズムがわかってくれば、それを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事は常にすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングもしている。	状態に変化がなければ、概ね3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。毎日の生活記録や家族の意見を集約し、職員と話し合っ介護計画を作成している。	昨年目標達成計画にも掲げているが、「その人らしさを感じる計画」を目指して努力されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送り、生活記録での情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域の行事に参加している。地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、利用者と共に楽しい時間が過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医による往診が月に一度ある。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている。	毎月、近隣の協力医の往診を受けている。職員である看護師が週に3日出勤して状況把握をしており、医師と看護師が連携して利用者の日々の健康管理から緊急時までの対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を得て把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどのように迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている。	重度化や終末期対応については、利用開始時に家族に対し、ホームで出来る限界を説明して了解を得ている。「食事が摂れなくなった時点」を目安にしているが、利用者や家族の意思を尊重し、その都度、医師や看護師、家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行っている。地域の消防団の方にも一緒に参加してもらおう事もある。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。実際に利用者を外まで誘導して災害発生時の問題点を確認し、近隣には避難先における見守り支援の協力を依頼した。市の要請を受け、緊急カードを作成した。	緊急連絡網による通報確認を行い、万が一の場合に備えることを提案したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導など一人ひとりに合わせた声かけをしている。	触れてほしくない、知られたくないと思えることには細心の気配りをして対応し、人格や誇りを傷つけない配慮をしている。一人ひとりに合わせた声掛けをし、失礼のないような支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出に行く回転寿司では、好きなものを食べてもらう様にしている。2ヶ月に一度の移動美容室訪問では、髪型など希望が伝わる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、その中でも利用者の希望は大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度移動美容室の訪問を楽しみにしている。季節にあった服装をしてもらう様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為に一緒に調理はしませんが、朝食のみ施設で作っているため、野菜の皮むき、食器拭きなどできる事はお願いしている。1ヶ月に一度手作りおやつ、2ヶ月に一度、外出に出かけている。	昼・夕の食事は宅配業者から配達される料理を温める方法で提供しているが、小鉢に入れるなど見た目でも楽しめる工夫をしている。近所から野菜の、家族からはお菓子の差し入れがあり、皆で「食」を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。お茶をなかなか摂取できない方は家族と相談し、好みのジュースなど持ってきて頂いている。毎食後、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。歯ブラシが使用できない方には口腔ケアウエッティーを使用しふき取りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ利用者の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう、声かけ、誘導、介助を行っている。	定時に声掛けし、様子を見てトイレへ誘導している。排泄後、ホットタオルを使用して拭きし、清潔を保っている。極力おむつを使用しない方針で臨んでおり、男性利用者はトイレで立って用を足す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をまめに行っている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。	1階は週3回、2階は人員配置上週2回の入浴を目途に支援している。前管理者時代に大型浴槽に入れ替えたが、使い勝手が悪く不安視する声もある。入浴拒否者には粘り強く声掛けし、入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はいつでもとれる様支援している。居室の温度調節、加湿に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れないか飲み込むまでを確認し、利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。また、好みのおやつを食べてもらっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は近所へ散歩に出かけているが、誕生日月には本人の希望にそって外出している。あじさい祭りなど地域の行事にも毎年参加している。またご家族にも買い物や喫茶店への外出の協力をお願いしている。	現状では外出希望者は少ない。気候が良い時期には、2ヶ月に1回程度は回転すし等への外出に出掛けている。外出が難しい場合には、仕出し弁当等で外出気分を味わってもらうことも考慮している。家族の協力を得て買い物や喫茶店に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。家族と一緒に買い物へ出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろんですが、利用者の各居室の整理など利用者と話しながら行っている。また、室温調整や加湿調整を行い快適な空間が提供できる様努めている。ひな人形、クリスマスツリーなどを飾り季節を感じられる様努めている。	リビングフロアは広く開放的である。おしぼりを丸めたり洗濯物をたたむ利用者がいたり、テレビを見てくつろぐ利用者がいたり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファーと一緒に座ったり、テーブルのあるイスで新聞を読まれたりと、自由に過ごしてもらえる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、新しく買った物ばかりでなく、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている。	ベッドと衣装ダンスは備え付けてある。入居のために新調したと思われる新しい家具も見られるが、思いの詰った使い慣れた家具を持ち込んでいる部屋もあり、居心地良く過ごせる工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 2F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成28年 2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JjgvsvoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JjgvsvoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 3月 1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様お一人お一人が出来る限りそれまでの自宅での暮らしの延長になるように「アットホーム」な介護支援を目指しています。施設内の行事だけでなく、町内会や町内の行事(はだか祭り、稲沢中学校職場体験、敬老会など)に積極的に参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に行う職員会議、カンファレンスを通し、アットホームな介護支援を目指し、共有して実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、はだか祭り、地区での敬老式等積極的に参加しています。裸祭りの際には裸男に来て頂き、利用者と楽しく交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学生の職場体験実習を受け入れ、認知症の方への理解や支援方法を学んで頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し民生委員、地域包括支援センター職員、利用者ご家族様に参加して頂き、利用者さんの状況報告、意見交換等行いサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のグループホームと連絡協議会を作り、お互いの情報交換と介護技術の向上に努めています。運営推進会議では稲沢市役所高齢介護課の担当の方に毎回出席をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者も出席する職員会議で何度も繰り返しながら身体拘束をしないケアをしている。玄関は開放していますが、安全確保のためユニット入り口は施錠をしています。必要時は職員が解錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いをし虐待をしない、させないように職員一人一人が努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は行えていませんが、管理者が制度を理解し支援、判断をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、理解、納得し安心して利用して頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム便りと個別のお知らせを3ヶ月毎に送付し、利用者、家族からの意見や苦情、要望は常に聞かせて頂く様心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、常に何でも話しが出来る様にしている。日頃から声かけ対話を交え、意見交換をしやすい人間関係作りをしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接面談を行うことで代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは順次参加出来る様にしている。研修を受けた際は職員会議で発表するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いのサービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時、利用者・家族からの聞き取りをしていますが、入所後の声かけを特に大切にして安心して生活頂ける様、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、利用者の心身の状態や人柄等を伺うと共に、家族からの不安や要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、管理者・職員で情報を共有し日々の支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にし、時には利用者が「風邪ひかんようにね」等の職員の体調や心を気づかって下さる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)で、利用者の施設での生活をお知らせしている。ご家族の協力が必要になる時もあり、不安のないよう随時連絡を取り信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や友人には来て頂くだけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。お墓参りにいきたい、お正月は家で過ごしたい等、要望があれば、それらが叶うように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、日中はフロアで皆さんと一緒に楽しく過ごせる様にしている。水分補給を兼ねて午前中はコーヒー、午後はお茶とお菓子を食べながら談笑出来る時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となられた方でご家族の希望により退所された方が見えますが、特に連絡は取っていません。ご家族のより連絡があった場合は対応させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の声かけ傾聴等で利用者の気持ちやその変化に気づける様会話を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報提供書を作成し職員が共有できる様にしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中から生活リズムがわかってくれば、それを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事は常にすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングをし利用者の現状に変化した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送り、生活記録での情報を共有し、カンファレンスを行いそこで出た意見を基に介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している。利用者の希望により、ご家族の付き添いで外出もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域の行事に参加している。地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、利用者と共に楽しい時間が過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医には、1ヶ月に一度往診をお願いしている。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を頂き把握している。救急による入院は管理者が付き添います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所した時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にて看護婦による勉強会を行い実践力を高めるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行っている。地域の消防団の方にも一緒に参加してもらう事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導など一人ひとりに合わせた声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食に行く回転寿司では、好きなものを食べてもらう様にしている。2ヶ月に一度の移動美容室訪問では、髪型など希望が伝わる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、その中でも利用者の希望は大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度移動美容室の訪問を楽しみにしている。季節にあった服装をしてもらう様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為に一緒に調理はしませんが、朝食のみ施設で作っているため、野菜の皮むき、食器拭きなどできる事はお願いしている。1ヶ月に一度手作りおやつ、2ヶ月に一度、外食に出かけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。お茶をなかなか摂取できない方は家族と相談し、好みのジュースなど持ってきて頂いている。毎食後、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。歯ブラシが使用できない方には口腔ケアウエッティーを使用しふき取りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をまめに行っている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などをみて日中30分ほど休息がとれる様支援している。居室の温度調節、加湿に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れないか飲み込むまでを確認し利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。また、好みのおやつを食べてもらっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月に一度外食する機会を作っている。誕生日には本人の希望にそって外出している。あじさい祭りなど地域の行事にも毎年参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。家族と一緒に買い物へ出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろんですが、利用者の各居室の整理など利用者と話しながら行っている。また、室温調整や加湿調整を行い快適な空間が提供できる様努めている。ひな人形、クリスマスツリーなどを飾り季節を感じられる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファーと一緒に座ったり、テーブルのあるイスで新聞を読まれたりと、自由に過ごしてもらえる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、新しく買った物ばかりでなく、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。		